

1. 具体的な内容が示せる語を使う。

(1) 普段気にしないで使っているトルコ語も、よく考えると奥が深い。

→「よく考えると」とは何をどう考えることか。

→「奥が深い」とは具体的にはどういうことか。この文を見ただけでは、読み手はわからない。

訂正例：

普段気にしないで使っているトルコ語も、様々な語尾や語形の規則について考えると説明すべき問題が多い。

2. 正確に意味内容が示せる語を選ぶ

(2) 外国語のなかで、最も得意な語は英語である。

「語」はトルコ語の dil といつも対応するわけではない。

→外国語のなかで、最も得意な言語は英語である。

(3) トルコのなかにもいろいろな人口がいる。

「人口」は人の多さをあらわす概念であり、人々の多様性をあらわすのには適切ではない。

→トルコのなかにもいろいろな人／人々がいる。

問題：次の文のなかから正確でない語をさがし、訂正してより正確な意味内容の文にのきなさい。

1. 私たちの校はアンカラにある。

2. 私の家族は全員ガラタサライの支持者である。

3. 吉村先生は、トルコ語と日本語の文法に興味がある。

4. このカメラの物価は 8 万円もするらしい。
5. 去年は、トルコへの旅客も徐々に回復していたそうだ。

3. 感情的・心情的な語の使用を避ける

客観的な判断を示す文には、「好き」「すばらしい」などの感情や意見を前面に出した文章や言葉を使わない。

(4) ケマル・スナルはトルコで最もすばらしい映画俳優である。

→ 事実の記述と意見の区別という観点からもこのままの文では適切ではない。

(5) カップドキアの早朝の景色はとてもすばらしい。

→ 「とても」「非常に」のような語は、読み手には伝わらない。

問題：以下の文をできるだけ客観的な文に直しなさい。

1. トルコに初めて来たとき、ドルムシュという便利な乗り合いバスがあつて感動した。
2. 生の魚を食べることを野蛮だという人たちの考えは許せない。
3. 一人で音楽を聴くのは非常に好きだ。
4. 故郷のイスタンブルに帰るとうれしい気持ちになる。

4. 誰もが理解できる語を使用する。

たとえば、以下のような文章をアンカラ大学日本語日本文学科以外の読み手は理解できるだろうか。

(6) 今年の日本文化祭も、スヒエのキャンパスにある大学校舎内にあるファラビー・サロンで開催される予定です。

→ 今年の日本文化祭も、アンカラのスヒエ地区にあるアンカラ大学の言語歴史地理学部にある大ホール（ファラビー・サロン）で開催される予定です。

5. 「のだ」「のである」を多用しない。

(7) 日本語とトルコ語は文法構造も類似しており、トルコ語を母語とする学習者にとっては日本語の学習は容易なのである。

→日本語とトルコ語は文法構造も類似しており、トルコ語を母語とする学習者にとっては日本語の学習は容易である。

※なぜ「のだ」「のである」を使いすぎるべきでないのか考え、説明しなさい。

引用文献・参考文献

清水明美(他編)(2011)『Practical 日本語 文章表現編—成功する型—』(改訂版). 東京:おうふう.

林治郎・岡田三津子(編著)(2008)『改訂版 言語表現技術ハンドブック』. 大阪:晃洋書房.